



マンスリー・ハイライト 拝啓社長殿

## マネジメントのための経営財務情報

第 631 号 この資料は全部お読みいただいて 2 分 40 秒です。

### 今回のテーマ： GX（グリーン・トランスフォーメーション）について

「経済財政運営と改革の基本方針 2023」（以下、「基本方針」とする。）が令和 5 年 6 月 16 日に閣議決定されました。基本方針では、科学技術・イノベーションの推進による経済成長を基本戦略の一つと位置付けています。その中でも GX（グリーン・トランスフォーメーション）は中心的な取り組みの一つとされています。GX の理解を深めることは、今後の技術トレンドや最先端の研究開発動向を理解することにつながり、注目すべきテーマといえます。

#### GX（グリーン・トランスフォーメーション）とは

脱炭素社会に向けて、経済・社会、産業構造をクリーンエネルギー中心に移行し、社会システム全体を変革することを GX（グリーン・トランスフォーメーション）と呼んでいます。

2015 年のパリ協定を受け、我が国では、2030 年度の温室効果ガス 46%削減、2050 年カーボンニュートラルの実現という国際公約を掲げており、GX は注目すべきテーマとなっています。

#### GX における重点分野について

基本方針では、以下の事項を GX の重点取組み事項と定めています。

- ① 徹底した省エネルギーの推進、特に産業部門のエネルギー使用量の 4 割を占める主要 5 業種（鉄鋼業、化学工業、セメント製造業、製紙業、自動車製造業）に対して国が非化石目標の目安を提示し、製造業の燃料・原料転換を加速する。
- ② 再生可能エネルギーの最大限導入拡大に取り組む。次世代太陽電池や浮体式洋上風力等の社会実装、次世代蓄電池やスマートエネルギーマネジメントシステムの技術開発を進める。
- ③ 原子力の安全性向上を目指し、新たな安全メカニズムを組み込んだ次世代革新炉の開発・建設に取り組む。
- ④ 水素コア技術を国内外で展開しつつ、水素・アンモニアの大規模かつ強靱なサプライチェーンの早期構築を目指す。自動車については、2030 年代前半までの合成燃料（e-fuel）の商用化を目指す。
- ⑤ 今後 10 年間で 150 兆円超の官民 GX 投資の実現を目指し、GX 経済移行債等を活用した大胆な先行投資支援を規制・制度措置と一体的に講ずる。

#### e-fuel（合成燃料）に注目

2023 年 3 月 28 日に開催された EU エネルギー閣僚理事会において、再生可能資源由来の電気エネルギーを用いて生成された e-fuel(合成燃料)や水素を利用する内燃機関車に限り、2035 年以降も新車販売を認めることを新たに決議し、従来の電気自動車以外の販売を禁止する規制の見直しが行われました。これにより、e-fuel(合成燃料)に関する注目が高まっています。

e-fuel（合成燃料）とは、二酸化炭素と水素を原材料として製造する石油代替燃料であり、液体での運搬や貯蔵が可能のため、従来の原油・ガソリン等の運搬・保管設備が転用できることがメリットとされています。また、再生可能資源由来の電気エネルギーを用いて生成された e-fuel（合成燃料）は新たな二酸化炭素の排出を伴わないため、カーボンニュートラルの実現に向けて有力な手段とされています。ただし、現時点では製造コストが高く、生産の効率化が課題とされています。同様に、航空機についても電動化では十分な出力が得られないことから代替燃料の導入が検討されています。

#### お見逃しなく！

基本方針と同時に「新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画 2023 年改訂版」（令和 5 年 6 月 16 日 閣議決定、以下、「実行計画」とする。）が公表されています。

実行計画は内閣官房のホームページ（[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii\\_sihonsyugi/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/index.html)）で全文を確認することができます。実行計画には GX だけでなく、今後の政府の重点投資分野や法規制等の各種制度見直しの方向性や最近の技術トレンドが示されています。是非一読下さい。